

## 気候情報

### 2008年7月の日本の天候

- 東・西日本で顕著な高温
- 東日本太平洋側，西日本で顕著な少雨
- 西日本で顕著な多照，北日本では寡照

#### 7月の天気概況

梅雨前線は平年に比べ活動が弱く，西日本を中心に太平洋高気圧の日本付近への張り出しが強かったため，全国的に平年並から早い梅雨明けとなった。東日本，西日本，沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が多く，特に西日本の日照時間はかなり多かった。高温は東日本，西日本で顕著で特に西日本では1946年以降，7月としては3番目の高温となった。また，東日本太平洋側と西日本では，上空の寒気や湿った気流の影響で局地的な雷雨となる日はあったものの，広い範囲でまとまった雨の降る日は少なく，顕著な少雨となった。西日本太平洋側では1946年以降7月としては最も少なく，東日本太平洋側では2番目に少なかった。沖縄・奄美は台風第8号の影響で先島諸島を中心に雨が降ったものの，月降水量は平年を下回った。北日本は，上旬は北海道の東の高気圧が西に張り出し，気温がかなり高かったが，中旬以降は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く，顕著な高温はおさまった。なお，27日から29日にかけては，中国，近畿，北陸地方を中心に，上空の寒気と湿った気流の影響で大気の状態が不安定となり，所々で局地的な大雨となった。河川の洪水や急な増水，落雷や突風などにより各地で被害が発生した。

**上旬：**北日本は時々低気圧が通過し，天気は数日の周期で変わった。北海道の東海上の高気圧が南西に勢力をのばしたため，北日本には暖かい南風が入り顕著な高温となった。西日本と沖縄・奄美では東シナ海から黄海付近で太平洋高気圧が勢力を強めたため晴れの日が多く，四国，九州南部，九州北部では平年より早い梅雨明けとなった。東日本は，天気は数日の周期で変わったが，北海道の東海上の高気圧と西日本で勢力を強めた高気圧にはさまれた気圧の谷となり，一時天気がぐずつき，局地的な大雨となった。

**中旬：**北日本は低気圧が頻繁に通過し，天気は短い周期で変わった。東・西日本では太平洋高気圧におおわれ晴れる日が多かったが，上空の寒気や暖かく湿った気流の影響で山沿いを中心ににわか雨や雷雨となる日もあり，局地的に大雨となった。沖縄・奄美では晴れの日が多かったが，台風第7号や熱帯低気圧の影響で天気の崩れる日もあった。

**下旬：**北日本は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く，低温となった。東・西日本は，はじめ太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が多かったが，旬の半ば以降は前線が北陸付近に停滞したため，北陸地方では曇りや雨の日が多く，そのほかの地方でも上空の寒気や湿った気流の影響で，一時雷雨となるところがあった。特に27日から29日にかけては，所々で局地的な大雨となり，河川の洪水や急な増水，落雷や突風による災害が発生した。沖縄・奄美は晴れて暑い日が多かったが，台風第8号の接近で先島諸島を中心に天気が崩れる日もあった。

#### 7月の気候統計

**月平均気温：**東日本と西日本でかなり高く，北日本と沖縄・奄美で高かった。

**月降水量：**東日本太平洋側と西日本でかなり少なく，東日本日本海側と沖縄・奄美で少なかった。東日本太平洋側と西日本では平年の40%未満となったところが多かった。北日本では平年並だった。

**月間日照時間：**西日本でかなり多く，東日本太平洋側で多かった。一方，北日本では少なく，東日本日本海側と沖縄・奄美では平年並だった。

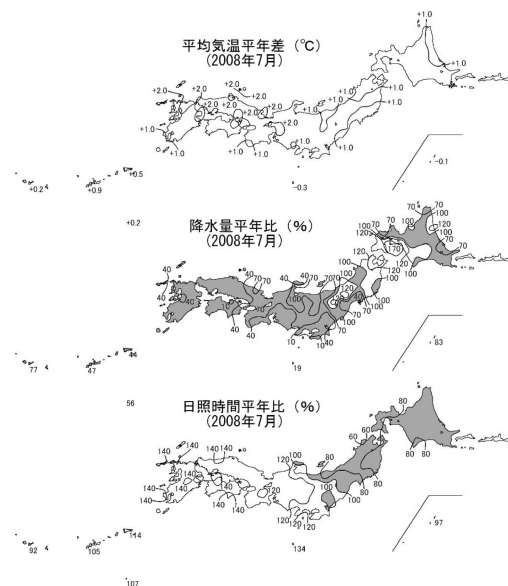
(気象庁観測部統計室)

#### 7月の記録（1位更新のみ）

##### ・月降水量少ない方から（mm）

飯田 24.5 尾鷲 41.5 三宅島 9.5 下関 31.5

#### 2008年7月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は，平年より低い（少ない）地域を示す。